

肺炎球菌ワクチン予防接種（23 価）説明書



1 肺炎球菌と肺炎

肺炎球菌による肺炎は成人肺炎の 25～40%を占めます。特に高齢者での重篤化が問題となっており、肺炎は日本人の死亡原因の第5位となっています。

2 肺炎の予防法

日ごろから十分な栄養や休養をとることが大切です。また、お口の中を清潔に保ち肺炎の原因となる細菌を増やさないことも大切です。こまめにうがいをしたり、食後に歯みがきをすることも肺炎の予防には有効です。

3 予防接種の有効性

肺炎球菌には 90 種類以上の型があります。肺炎球菌ワクチンを接種することで、頻度の高い 23 種類の肺炎球菌の型に免疫をつけることができます。ワクチンは 1 年中いつでも接種できます。また、医師が必要と認めた場合にはインフルエンザワクチンと同時接種することができます。

ワクチンの効果は 5 年以上持続しますが、免疫力は時間とともに低下していきます。しかし副反応が強く発現することがあるため、5 年以上経過しないと再接種できません。

4 予防接種の副反応

接種部位の疼痛、熱感、腫脹、発赤が 5%以上認められます。また、倦怠感、違和感、悪寒、発熱、筋肉痛、頭痛もありますがいずれも軽度で 2～3 日で消失します。

まれに重い副反応として、アナフィラキシー様反応、血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応等が出ることがあります。

5 接種を受ける前に

(1) 一般的注意

この説明書を読んで、必要性や副反応について分からないことがあれば、担当医や看護師に質問し十分納得してから接種を受けてください。予診票は接種をする医師にとって大切な情報です。責任を持って記入し現在の健康状態を正しく伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ①明らかに熱のある人（通常、体温が 37.5 度以上ある人）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

③ワクチンの成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある人

アナフィラキシーとは、通常、接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④過去 5 年以内に肺炎球菌予防接種（23 価）を接種したことがある人

⑤その他、医師が不適当な状態と判断した人

(3) 接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患及び血液疾患等の基礎疾患を有する人

②予防接種で接種後 2 日以内に発熱のあった人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人

③過去にけいれんの既往のある人

④過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

⑤本剤の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

6 受けた後の一般的注意事項

①予防接種を受けた後の 30 分間は、急な副反応が起きることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。

②副反応の多くは 24 時間以内に起こるので、体調に注意しましょう。

③入浴はできますが、注射部位を強くこすることはやめましょう。

④接種当日はいつものとおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒はさけましょう。

※予防接種を受けた後、副反応と思われる症状が現れたら、医師の診察を受けてください。そのほか、わからない時は下記へお問い合わせください。

《問い合わせ先》

尾張旭市健康福祉部健康課

（尾張旭市保健福祉センター内）

0561-55-6800